

米子のみなさんへメッセージ

稲垣麻由美

6年前、この恋文に出逢ったとき、私は心が震えました。

まず、70年以上前に綴られたこの手紙が束となって現存していること。そして、そこには『愛する私のパパ様へ』『あなたに逢いたくて、淋しくて』のあまりにストレートな言葉。

そして、この恋文との出逢いは、私にとって間違いなく、戦争とは何かを知り、日本の歴史を振り返り、学び、未来を考える扉となりました。それまでの私は、本当に無知だったのです。無知とは考える術を持たないことです。

今、起こっている危機にもきづかないということです。あの時代を懸命に生きた、ある夫婦の物語から何かを感じ取っていただけましたら心より幸いです。みなさまとお目にかかれますことを心より楽しみにしております。

「戦地で生きる支えとなった115通の恋文」をお読みになった方々の感想です

この本を読んでいると、途中で止めることが、できなくなってしまいました。その上、何回も読み返し、「お父様、今日もお元気でせうね。」に始まり、何げなくありふれた、日常の生活のことにふれた、愛情あふれる恋文。この行間に今日も、生きていて欲しいという切ないまでの、願いが読み取れ、涙しました。
(加茂篤代/80代/米子市/無職)

戦時下で遠く戦地に赴いた愛する夫への妻としての当り前の日常を手紙で伝え、無事を祈る想いが伝わります。そして過酷な戦場で夫の心の支えになったのが妻からの115通の手紙であったことに心を動かされます。「115通の恋文」は戦争について大上段に構えるのではなく、戦争によって普通に暮らしている人々がどんな状況に置かれていくのかが著者である稲垣さんの文書でより鮮明になりました。戦争になったら私たちの生活はどうなるの？是非読んで欲しい本です。
(新田ひとみ/60代/米子市/暮らしの環境アドバイザー)

愛しくて愛しくて....淋しくて淋しくて....この生々しい言葉を見た瞬間、照れ臭く恥ずかしささえ感じた私は、自らの力では、どうする事もできない恐ろしい時代に呑み込まれた事もなく、大切な人と引き裂かれたこともなく、その人の命の安否に恐れる事もない。愛する人に、言葉で身体で誰に憚れる事もなく想いを伝えられる....そんな平和な時代に生まれ、生きているからなのだと思います。
(森田多佳子/50代/米子市/ブティック「one's」オーナー)

ミンダナオで、この手紙が読み返されていたかどうかは分からない。ただ、夫は「想い」尽まったこの手紙と共に生きたかったのだろう。そして、死ぬ時も一緒に居たかったのだろう。この切なさが「あの時代」の強い男達の本当なのである。
(米原佳子/40代/米子市/本の学校 Cafe Area マネージャー)

読んでみて、自分が戦後に生まれ戦争はしないと決めた国に育ったことがどんなに幸せなことであったかに気づきました。私が誰からも暴力を受けることもなく、家族を奪われることもなく生きてこれたのは、それを禁ずる憲法があったからなんだと気付いたのは今その憲法9条を変えようという動きが感じられるからです。夫の父親は夫がお腹にいるとき召集されそのまま帰っては来ませんでした。その妻である母親はまだ24歳の若さでした。その理不尽さをこの本を読みながら思いました。戦死した義父は優しい人だったようです。当事者の悲しみや怒りをせめて闇に埋もらせぬようにと思います。
(矢崎タミコ/60代/米子市/ヒューマンケア「モモの家」主任)

70年以上の時を経て、手紙が残されていた「想い」に驚嘆しました。今の私達は効率を優先し、人、物を時間をかけて「想う」大切さを忘れていくことに改めて、気が付きました。恋文は甘い内容ではなく、妻の苦しい程切ない「想い」が吐露されています。平和な時代を生きてきた私は、戦争を体験された方々の「想い」を真剣に考えたことがなかったと恥ずかしながら思いました。今の時代だからこそ、我が事として、妻と夫、二人に「想い」を馳せながら、多くの方にこの本を読んで頂きたいです。
(湯原裕子/40代/米子市/主婦)



戦地で生きる支えとなった115通の恋文 著者：稲垣麻由美

■発売日：2015年7月23日 ■定価：本体1,300円＋税

■単行本一平装191ページ（ソフトカバー）18.6 × 12.8 × 1.8 cm

■出版社：扶桑社 ■ISBN-10：4594073018 ■ISBN-13：978-4594073015